



読んでみよう HIJI SO GOOD!! Reading

「読書習慣に関する調査」の結果について 2021年1月28日実施

日出総合高校の生徒の数値から読み取れること

- ・1か月に読む本の冊数が「0冊」の生徒は48.5%（昨年度53.6%）※**県目標値25%**
「1冊未満」の生徒は25.4%（昨年度22.9%）
- ・学校図書館を「よく利用している」生徒は2.9%（昨年度4.5%）
「まったく利用していない」生徒は76.1%（昨年度64.3%）
- ・「新聞をほとんど読まない」生徒の割合は73.9%（昨年度71.8%）
「新聞を毎日読む」生徒の割合は1.5%（昨年度1.2%）※**新聞を毎日読む生徒の割合が増加**
- ・一昨年度、昨年度と比較して、「本をじっくり時間をかけて読みたいと思う」生徒の割合は28.4%→25.2%→26.5%、「時間をかけて読みたいとまったく思わない」生徒の割合は17.5%→20.2%→21.0%。
- ・一昨年度、昨年度と比較して、「本をもっと読みたいと思う」生徒の割合は、21.9%→19.2%→21.3%、「本を読むことが好きである」生徒の割合は22.6%→20.2%→22.4%で、それぞれ増加傾向。※**朝の読書の時間を活用しよう!!**



新聞や本をじっくり読んでみませんか。
考えて判断し行動する力が、さらにつきますよ。



図書委員会作成「ブックマーク」へのお礼

陽谷祭のあと図書委員会がブックマーク(本のしおり)を作成し、12月に日出支援学校、2月に大神小学校に各100枚贈りました。日出支援学校より贈呈式の報告が、大神小学校の図書委員会からお礼の寄せ書きが届きました。寄せ書きは図書館に掲示していますのでごらんください。



右側は「10月～1月に読んだ本の紹介」です。

10月～1月に読んだ本の紹介

1月19日提出分

展示している本は貸し出しできます。

・悩み解決部という部活に所属している男女3人が、様々な人の悩みを解決していくお話。中でも気が強くトラブルをよく起こすけれど、正義感が強い部長のエリカに注目して読むとよいと思います。(1年生)

麻希一樹著

『「悩み部」の復活と、その証明。』

学研プラス



・「あなたは常識人間を捨てられるか」というサブタイトルのように、最初から驚かされる内容です。読んだ後人生が180度変わるかもしれない、迫力のある本で、心に残りました。(1年生)

岡本太郎著『自分の中に毒を持って』

青春出版社



・主人公の鳩子は、先代から受け継いだ文具店と代書屋の仕事を通して、たくさんの人の気持ちや思い出にふれ、成長していきます。手紙のページには、鳩子を書いた字が再現されているのも、この本の魅力です。(1年生)

小川糸著

『ツバキ文具店』

幻冬舎



・気に入っているシーンは、太宰治と国木田独歩がお互いの異能を理解し、マフィアのボスを倒すところ。二人の掛け合いがとても面白く、驚くシーンもあって、とてもハラハラできる本だと思いました。(1年生)

朝霧カフカ著

『文豪ストレイドッグス』KADOKAWA



・読んでみると怖い本ではありませんが、登場人物はみんな友達思いで、一人を犠牲にすることで話が進んでいきます。怖い話はもともと好きですが、友情の部分が加わっていてオススメです。(2年生)

山田悠介著『ドアD』

幻冬舎



・たくさんの智慧を学ぶことができる名言が多く、とてもためになる本です。心に刺さる言葉が多いので、高校生のあいだに読むべき本ではないかと思っています。(2年生)

谷沢永一著『名言の智慧 人生の智慧』PHP研究所



・高校に入学した主人公は、姉に命じられて「古典部」に入部する。仲間に依頼され、日常に潜む不思議な謎を解き明かしていく。文集のタイトル『氷菓』が秘める謎とは。(2年生)

米澤穂信著『氷菓』KADOKAWA



・映画の続きが気になり、映画の続きを見つけるという話。文化祭用の自主製作の映画で、密室で少年が殺されるが、犯人がわからないまま終わった。犯人は誰だったのか、読めばわかります。(2年生)

米澤穂信著『患者のエンドロール』KADOKAWA



・とある病院に12人の子どもたちが集まる中、謎の13人目がいた。それが誰なのか探りつつ、自分たちの死にたい理由を話していく。それぞれにいろいろな価値観があることがわかる。(2年生)

冲方丁著『十二人の死にたい子どもたち』文藝春秋



<春休み前特別貸し出しのお知らせ>

一人20冊まで 返却日は4月8日(木)